

# 産学連携による商業施設公開空地整備計画

## — ショッピングセンター（イズミヤ福町）緑化計画 —

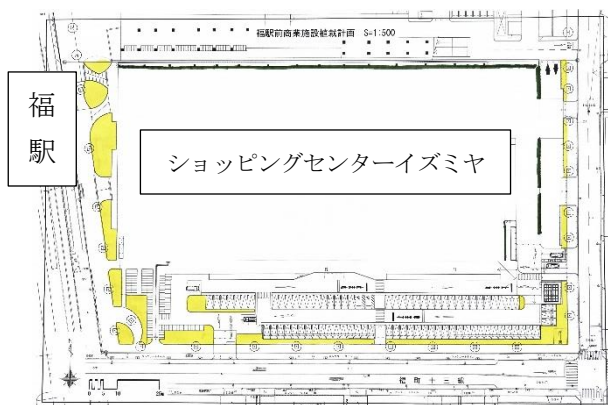
学校名 修成建設専門学校

所属学科 著者名 ガーデンデザイン学科2年 ○京谷 妃菜, ○梶本 爽花, ○佐久間 年音, ○横田 好葉  
(指導教員 窪田 彩音 中安 哲男)

### 1. はじめに

本プロジェクトのきっかけは、本校が所在している大阪市西淀川区にあるショッピングセンター「イズミヤ ショッピングセンター福町」を運営管理している株式会社エイチ・ツー・オー商業開発様より西淀川区役所さんを通して相談があったことからでした。

「イズミヤショッピングセンター福町」は、阪神電気鉄道阪神なんば線の福駅に隣接しており、7年程前に開業したショッピングセンターである。店舗緑地（植栽帯）・壁面緑化・駅前にはオープンスペースがある施設であったが、最低限の管理状況でありオープンスペースの緑地帯はうっそうとした様子で機能していない状態であった。緑地帯を改修して店舗のイメージUPと福駅前のオープンスペースを近隣の方が集いやすい活気あるスペースへ改修していきたいといった内容であった。



↑敷地図 ※色塗箇所が緑地範囲



現況写真（施工前）

### 2. 現地調査

プロジェクトの主体となる本学科2年生(全21名)で4チームを編成し、店舗緑地（植栽帯）・壁面緑化・駅前にはオープンスペースを含めた植栽エリアの改修整備計画案策定に先立ち、現地状況の把握及び調査を行いました。

株式会社エイチ・ツー・オー商業開発様より敷地図面を提供していただき、ショッピングセンターの館長から過去の管理の状況についての説明を受けながら、日照条件や土壌検査、植生状況などの調査を行い、今後は人が集う場所へ改修していくことから街の歴史・周辺の状況・店舗利用者の把握・地域コミュニティの様子などを調査しました。



現地調査のようす



館長の説明

### 3. 基本構想案

現地調査をもとに、各々のチームでディスカッションしていきました。ただ気に入った好きなデザインをするのではなく、植栽を扱うにあたって「改修整備をして終わり」ということではなく、運営管理をしていく中で今後も植栽を生かせる

KYOTANI Hina  
KAJIMOTO Sayaka  
SAKUMA Nene  
YOKOTA Konoha  
info@syusei.ac.jp

ように維持管理をしていくにはどのような管理をしていくか、オープンスペースに近隣住民が集い機能するためにはどのようにするべきか、私たちは緑地帯で何を伝えたいか、など設計前にディスカッションを行い、設計の目標設定を行いました。



#### 4. プレゼンテーション

4チームが各々に基本構想案を作成し、運営管理者である株式会社エイチ・ツー・オー商業開発様だけに行うのではなく、ショッピングセンターを利用してくださる近隣のお客様も対象にプレゼンテーション大会を店舗内で開催させていただき、多くのお客様方に各構想案の感想と一番良いと思われる案を投票できるようにプレゼンボードを作成し掲示して投票期間を設けました。



プレゼンテーションでは、一般のお客様も対象にしていることから、聞き手側の立場になって植物に興味がない人へも伝わるように工夫をこなしました。

そして、2週間の投票期間を経て、4案のうちから1つの基本構想案が決定しました。

#### 5. 実施設計

運営管理者である株式会社エイチ・ツー・オー商業開発様と何度も協議を行い、提示されたインシヤルコストとランニングコスト内で実施設計を行いました。プレゼンテーション大会の投票でデザインは決定しましたが、投票数はどのチームも僅差で接戦であったため各々のチームの良い箇所は含めて実施設計を行いました。

#### 6. 施工

計画決定まで9ヶ月を要したが学生と教員が一体となり施工にあたる予定です。施工作业は10月中旬から着手の予定ですが、ガーデンデザイン学科2年生が主体となった職業造園実践教育と位置づけ、ものづくりの流れを理解し施工管理で4大管理ともいえる「安全管理、品質管理、工程管理、原価管理」の体得も目指し、安全管理者・品質管理者・工程管理者・原価管理者を各々に定め、学科全体がワンチームとなって施工していきたいと思ひます。

最後に

机上の学びを越えて考えてデザインしたものが実際に造り完成する喜びを体感し、今回のプロジェクトは通常の学びでは得難い経験と発見があり、造園に対する視野を広げ、造園に興味のない人も対象に相手の立場となって考えることができる学生へ成長していると思ひます。